

言語文化継承のフィールドトリップ

—ズレチェ市、レスニク村への旅—

守時なぎさ（リュブリャナ大学）

1. フィールドトリップ行程

スロベニアは、1991年に独立した中東欧に位置する国である。四国ぐらいの大きさの国に200万人の人が住んでいる。かつては西側ローマとウィーン、ゲルマン世界とマジヤール世界を繋ぐ交通路として発達した。日本と同じく約70%が山地であり、山地で、平地でそこで人々の生活が営まれている。言語に関しては、スロベニアには大きく分けて7つの方言があるが、再分類するとその数は増える。2023年の資料によると50の方言が記されている¹。つまり、四国に50の異なる方言があるということになる。実際、筆者の近くの村落でも3キロほど離れた隣の集落に行くと、異なったアクセントや語彙が使われていることに驚く。

我々言語に関わるものとして、スロベニアの言語生活は非常に興味深いものであるが、一時的な訪問者には方言の豊かさを深く理解することは難しい。そこで、言語生活と切り離せない日常生活を体験的に垣間見ることで、スロベニアの一地方に住む人々の伝統の上に立った豊かな生活を体験し、自らの言語教育や言語研究を振り返ることを意図としてフィールドトリップを計画した。

フィールドトリップの概要は以下の通りである。

8時30分	リュブリャナ発
10時00分	ズレチェ（Zreče）駅着 地元の文化継承者によるアコーディオンによる出迎え、養蜂業見学、はちみつ、菩提樹のハーブティー、ポティツァ、および自家製焼酎の試飲・試飲 ズレチェ地方鉄道博物館アントン・ガルン（Anton Galun）氏によるズレチェ狭軌鉄道の歴史に関する講義 蒸気機関車試乗
13時00分	レスニク（Resnik）村着 村民の暮らしに関する動画鑑賞、ワークショップ（木こり、羊毛、木のっかけ作りなど） 昼食（ポホリエ地方の具沢山シチューとシュトゥ

¹ スロベニア方言図 https://fran.si/204/sla-slovenski-lingvisticni-atlas/datoteke/SLA_Karta-narecij.pdf（閲覧日 2026年3月7日）

	ルーデル)
	<p>聖ヤコブ教会（15世紀建築）見学。</p> <p>ペテル・コス（Peter Kos）氏によるポホリエ地方方言に関する講義</p> <p>レスニク村の詩人ユーリ・ヴォドウニク（Jurij Vodovnik, 1791-1858）の紹介</p> <p>レスニク村に伝わる唄の披露</p> <p>フィールドトリップ参加者による「ふるさと」のお返し合唱</p>
18時	リュブリャナに帰着

2. フィールドトリップ詳細

ズレチェ地方鉄道博物館においては、アントン・ガルン（Anton Galun）氏による同地域における鉄道史に関するミニレクチャーが、アンドレイ・ベケシュリュブリャナ大学名誉教授の通訳で行われた。ポホリエ地方では、他のヨーロッパ各地と同じく19世紀末より地方鉄道の敷設が進められた。同地域は山岳地帯であることから、狭軌鉄道が採用され、ここで産出される木材および石炭の輸送に重要な



写真1：ズレチェ地方鉄道博物館

役割を果たしたのみならず、地域住民の日常的な移動手段としても利用された。しかし、1960年代以降、自動車交通の普及に伴う輸送・交通体系の変化により、この鉄道路線は廃止された。

次の訪問地は、ズレチェ村からさらに約30分山間部へ進んだ場所に位置するレスニク村であった。ここでは、昼食に先立って地域の伝統的手

工業に関する体験型ワークショップが実施された。ズレチェ村が位置するのは車のすれ違いも困難な細い道を登ったところにある山岳地帯で、現在よりも冬季の気候が厳しかった時代には地域が半年以上にわたり積雪に閉ざされることも少なくなかった。そのような環境下において、人々は屋内で可能な作業に従事するとともに、近隣住民が集い、飲食や歌唱を伴う相互交流が心の糧となっていた。この地域には、重層的な旋律ハーモニーを特徴とする多数の民謡が伝承されており、その一端を我々は聖ヤコブ教会において聴く機会を得た。同教会で行われたミニ合唱会は我々のために特別に企画されたものであったが、本来これらの歌唱は、住民が手作業に従事しながら、あるいは卓を囲んで飲食を共にしながら自然発生的に歌われてきたものである。この文化体験に想いを馳せるとき、日本においても同様の生活様式や音楽的伝統が見られた時期や地域が存在したことを想起させる。

予定していた時刻から大幅に遅れて我々が出発した際、フィールドトリップを担当してくれた地元



の関係者は、ワークショップ会場となった文化センターにおいて、まさに宴を始めようとしているところであった。そこには年齢や性別を超えた地域住民同士の営みがあった。おそらく



彼らは夜遅くまで食べたり飲んだり、そして歌ったりするのだろう。このような人々に触れることで、言語および文化がいかに我々の毎日の相互作用によって維持・継承されているかを、わずかではあるが観察することができたように思う。同時に、我々が携わって



いる言語教育の場においても、学習者一人ひとりがこのような固有の言語文化的背景を多かれ少なかれ有しているという点を忘れてはならない。その背景に配慮をこそ、言語教育はより適切で包括的、かつ我々の日常生活に根ざした言語学習として遂行できると考えられるからである。

写真上左：菩提樹の木によるつっかけ作り
写真上右：羊毛紡ぎの工程を説明する地元民
写真下：聖ヤコブ教会での唄の披露

3. スロベニアのシンボル 菩提樹

以下に引用したのは、ズレチェ鉄道博物館で講話を行う予定であったスメトリカ・ズレチェ薬草協会ダリヤ・ポドゴルシエク（Darja Podgoršek）氏が参加者のために準備していた原稿である。フィールドトリップの時間的制約により、ポドゴルシエク氏はこの原稿を参加者に紹介することができなかったため、本稿において共有する。

菩提樹もしくはセイヨウシナノキ

菩提樹は、柔らかい木材とハート型の葉っぱを持つ樹木の一種です。スロベニアにはセイヨウシナノキ、シナノキ、若シナノキ、大葉シナノキの4つの種が生育しています。スロベニアとその周辺では、菩提樹はとて多くの意味があります。地名、苗字、通貨の単位、工場の名前、また政党の名前に

も使われています。

菩提樹は、当地にキリスト教が伝わるよりも遙か前からスロベニアでは神聖な木でした。その堂々とした姿（大地と天を繋ぐ象徴）と長寿（永遠の象徴）が尊ばれてきました。

菩提樹は、スロベニア人にとって特別な意味を持ち、またすべてのスラブ民族にとって社会生活の中心に位置する重要な役割を果たしてきました。例えば、多くの村では、中心に菩提樹が植えられています。木の袂には石の腰掛けが置かれ、村人は争いごとを話し合ったり、村の取り決めに関する大切な決定を議論したりしました。菩提樹の木の下では祭りや踊りも催されました。窓に飾られた菩提樹の小枝は、精霊を招き、蛇や悪い獣を追い払うと信じられてきました。クリスマスの時期には、菩提樹の枝は娘たちが良い夫を見つけてくれると考えられています。春になると、菩提樹の芽吹きが春の訪れを告げてくれます。

菩提樹の蜂蜜や花は、健康のために欠かすことができません。菩提樹の花のお茶は痙攣を和らげ、発汗を促し、体温を下げます。樹皮から作られる薬は肝臓に効くと言われ、菩提樹の炭は消化促進や傷の治癒に用いられました。

菩提樹は柔らかい木材としても知られており、昔から製造の彫刻に使われてきました。現在ではおもちゃの材料としても人気があります。菩提樹の樹皮も、カゴや羊使いの外套に使われました。

菩提樹は世代を超えて人々に寄り添い、人生を通して健康を守ってくれますが、その存在は人生最後の道のりも供にしてくれます。「緑の菩提樹」という歌は、存在の美しさ、深い感情、うつろいやすさと転生を象徴しています。

++++

小さな村で、太陽の光がそっと水面に触れるところに古い古い一本の菩提樹が立っていました。それは村の中で一番大きく一番美しい菩提樹でした。菩提樹の力強い枝は、広く広がり、葉は心地よい木陰を作りましたから、子ども達はその下で遊ぶのが大好きでした。

古い菩提樹の木は、ただの植物ではありませんでした。菩提樹は、土地の大切な遺産でもありました。伝説によると、この菩提樹が植えられたのは、村に人が住み始めた 100 年以上も前のことだったと言われています。その時遠くから知恵に満ちた目をした賢人が村にやってきました。この賢人は菩提樹の種を袋から出して、こう言いました。

「この木は、お前たちの喜びも苦しみを全て見守るだろう。この木によって、村の絆は強くなるだろう。」

それから長い月日の間、菩提樹は枝の下で遊ぶ子供たちを見守り、木の周りに集う老人たちの話に耳を傾けてきました。毎年春になると、菩提樹は白い花を咲かせ、その香りにミツバチが集まってきます。秋になると金色や赤い鮮やかな色に染まりました。

このようにして、菩提樹は村人たちの聖なる場所になりました。辛い時には人々は菩提樹の木の下に集まり、心配事を分け合いました。皆、木の精霊が幸運と守りをもたらしてくれると信じていました。

こうして古い菩提樹は、ただその美しい姿を見せるだけでなく、人々の強さ、健康、そして永遠の絆を象徴する存在となりました。

フィールドトリップ協力者

イゴル・ツヴェトコ氏

マルティン・ムルズドウニク ヴラドコ・モホリチ・ズレチェ文化芸術協会会長

ペテル・コス ズレチェ小学校教諭

協力団体

Kulturno umetniško društvo Vladko Mohorič Zreče ヴラドコ・モホリチ・ズレチェ文化芸術協会

Društvo zeliščarjev Smetlika Zreče スメトリカ・ズレチェ薬草協会

Lokalna muzejska železnica Zreče ズレチェ鉄道協会

Turistično društvo Resnik – Rogla レスニク・ログラ観光協会